医療施設名・連絡先

RMP

オレンシア®による若年性特発性関節炎の治療を受ける方へ

監修　森 雅亮 先生（東京医科歯科大学 生涯免疫難病学講座）

2018年2月作成
OR/2018/002
ORC-J003

ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社　小野薬品工業株式会社

若年性特発性関節炎ってどんな病気？

若年性特発性関節炎は、
16歳未満の子どもが発症する、
原因のわからない関節の痛みや腫れが
つづく病気です。

若年性特発性関節炎とは

若年性特発性関節炎は、16歳未満の子どもが発症する関節炎※1のうち、原因が分からず、症状が6週間以上つづく病気です。関節炎が長くつづくと、関節の変形や成長障害により、生活に大きな影響が出る場合があるので、注意が必要です。

若年性特発性関節炎の症状には、免疫※2に関わるTリンパ球（T細胞）やマクロファージという細胞が深く関わっていると考えられています。

※1 **関節炎**：関節の炎症。関節の痛みや腫れ、熱感がある、赤くなる、動かしにくい、といった症状が認められる。
※2 **免疫**：体の中に侵入してきたウイルスや微生物などの敵を退治するはたらき。

若年性特発性関節炎のタイプ

若年性特発性関節炎は、大きく全身型と関節型に分けられます。

全身型

長引く発熱やサーモンピンク色の発疹、関節炎が主な症状のタイプです。治療で発熱や発疹などの症状が治まっても、関節炎だけが残ってしまうこともあります。

関節型

関節炎が主な症状となるタイプです。関節炎の数や血液検査の結果、皮膚症状※3・付着部の炎症※4の有無でさらに6つのタイプ※5に分けられます。

※3 **皮膚症状**：乾癬（慢性の皮膚病の一種。皮膚が赤く盛り上がり、表面がフケのようなもので覆われ、ボロボロと落ちる症状がみられる）や手・足の指の炎症、爪の変形。
※4 **付着部の炎症**：腱や靭帯が骨とくっついている部分の炎症。
※5 **6つのタイプ**：少関節炎、リウマトイド因子陰性多関節炎、リウマトイド因子陽性多関節炎、乾癬性関節炎、付着部炎関連関節炎、未分類関節炎。

一般社団法人 日本リウマチ学会 小児リウマチ調査検討小委員会 編集：若年性特発性関節炎診療ハンドブック2017, p14-38, p74-83, メディカルレビュー社, 2017
一般社団法人 日本リウマチ学会 小児リウマチ調査検討小委員会 編集：若年性特発性関節炎初期診療の手引き2015, p26-50, p84-97, メディカルレビュー社, 2015
公益財団法人 日本リウマチ財団 教育研修委員会, 一般社団法人 日本リウマチ学会 生涯教育委員会 編集：リウマチ病学テキスト 改訂第2版, p137-141, 診断と治療社, 2016

若年性特発性関節炎の治療目標

若年性特発性関節炎の治療目標は、症状に左右されずに日常生活、学校生活、社会生活を送ることです。

そのためには、しっかりと治療を行い、症状や病気の進行（関節の破壊）が抑えられた「寛解」と呼ばれる状態を達成・維持することが大切です。

若年性特発性関節炎の治療法

若年性特発性関節炎の治療は、病気のタイプにより変わります。全身型ではステロイドが、関節型では抗リウマチ薬（DMARDs）と呼ばれる薬がよく使われます。

ステロイド	炎症を抑える薬です。 **全身型**では、診断が確定したらすぐに使用開始される薬です。症状が治まって使用を中止すると、また症状が悪化（再燃）することがありますので、治療がうまくいった後は徐々に減らしていきます。 **全身型以外の関節炎**では、DMARDsの効果が出てくるまでの期間のみ使い、その後は減らしていくなど、慎重な管理が必要とされています。
抗リウマチ薬（DMARDs）	関節リウマチの治療でよく使われる薬ですが、若年性特発性関節炎の**全身型以外の関節炎**に対してもDMARDsの一種、メトトレキサートがよく使われます。効果が出るまでに数ヵ月かかることがあります。

さらに、ステロイドやDMARDsでなかなか症状が治まらないときには、**生物学的製剤**と呼ばれる薬も使われます。

生物学的製剤は、病気の原因となる特定のタンパク質のはたらきを抑えるために開発された薬で、炎症の原因となるタンパク質（炎症性サイトカイン）や、炎症に関わるT細胞を標的とした薬などがあります。

藤川敏：小児科診療. 68 (4)：635-640, 2005
武井修治：日本臨牀. 74 (6)：1028-1034, 2016
一般社団法人 日本リウマチ学会 小児リウマチ調査検討小委員会 編集：若年性特発性関節炎診療ハンドブック2017, p40-60, メディカルレビュー社, 2017
一般社団法人 日本リウマチ学会 小児リウマチ調査検討小委員会 編集：若年性特発性関節炎初期診療の手引き2015, p52-66, メディカルレビュー社, 2015

オレンシア®ってなに？

オレンシア®は、活発(かっぱつ)になりすぎたT細胞(ティーさいぼう)を
おとなしくさせることで、症状(しょうじょう)をおさえる薬(くすり)です。

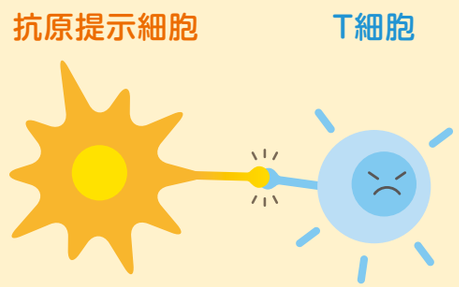
オレンシア®とは

若年性特発性関節炎でみられる関節炎には、T細胞の活性化（活発になりすぎた状態）が関わっていると考えられています。

生物学的製剤の1つオレンシア®は、そのT細胞の活性化を抑えることで関節の炎症を抑制します。

公益財団法人 日本リウマチ財団 教育研修委員会, 一般社団法人 日本リウマチ学会 生涯教育委員会 編集：リウマチ病学テキスト 改訂第2版, p137-141, 診断と治療社, 2016
アバタセプト（オレンシア®）点滴静注用250mg 添付文書 2018年2月作成（第9版）

1



T細胞は、抗原提示細胞と手を繋ぐと
活性化します。

2

若年性特発性関節炎患者さんでは、活性化しすぎたT細胞が
関節で余計な炎症を引き起こしていると考えられています。

3

オレンシア®は、T細胞と抗原提示細胞が手を繋ぐのを邪魔
するはたらきを持っています。

4

その結果、T細胞の活性化が抑えられ、
関節炎が抑制されます。

オレンシア®の副作用

オレンシア®の治療をはじめたあと、
- 発熱
- 咳、たん
- のどの痛み、鼻みず、鼻づまり
- だるさ
- 発疹、皮膚のかゆみ
- 息切れ、息苦しさ

などの症状が出たら、
すぐに病院の先生にみてもらいましょう。

オレンシア®による副作用には次のようなものがあります。

感染症

オレンシア®はTリンパ球のはたらきを抑えることによって若年性特発性関節炎の症状を抑えますが、Tリンパ球は細菌やウイルスに対する免疫による防御も担っているため、オレンシア®の投与により、感染症にかかりやすくなる可能性があります。

オレンシア®による治療を受けた患者さんで、鼻咽頭炎、気管支炎などの感染症の他、敗血症（細菌が血液によって全身に運ばれる感染症）、肺炎、蜂巣炎（皮膚深部に生じる感染症の一種）などの重い感染症も報告されています。

〈初期症状〉

敗血症 ふるえる、寒気がする、熱がある、脱力する、錯乱する、嘔吐する、下痢をする など

肺炎 たんを伴う咳が出る、熱がある、息切れする、胸が痛む、寒気がする など

蜂巣炎 皮膚が赤くなる、押すと痛む、熱をもって腫れる など

これらの症状がみられた場合は、直ちに主治医にご相談ください。

アレルギー反応

アナフィラキシーと呼ばれる急激で強いアレルギー反応や、低血圧、じんましん、呼吸困難などの重いアレルギー症状があらわれることがあります。

このようなアレルギー反応は、オレンシア®の投与（点滴）を受けている間や、受けた後に起きる可能性があります。投与中やご帰宅後に気分が悪くなったり、息苦しさやかゆみなどを感じたら、すぐに主治医や看護師にお知らせください。

間質性肺炎（肺炎の一種）

間質性肺炎があらわれることがあります。間質性肺炎では、階段を上ったり、少し無理をすると息切れがする・息苦しくなる、空咳が出る、発熱する、などの症状がみられ、このような症状が急にあらわれたり、つづくことがあります。これらの症状がみられた場合は、直ちに主治医にご相談ください。

その他

オレンシア®との関連性は明らかになっていませんが、オレンシア®による治療を受けた成人の関節リウマチ患者さんで、悪性腫瘍（がん）が起きたことが報告されています。ただし、オレンシア®を投与しなかった関節リウマチの患者さんと、がんの発生率に差はありませんでした。

主治医にお伝えいただきたいこと

次の病気にかかっている、もしくはかかったことのある方
（オレンシア®によって悪化・再発のおそれがあるため）

- 感染症（敗血症、肺炎など）
- 結核
- B型肝炎
- 悪性腫瘍（がん）
- 乾癬
- 慢性閉塞性肺疾患*
- 間質性肺炎
- 脱髄疾患**

＊肺気腫、慢性気管支炎、COPD（慢性閉塞性肺疾患の略語）などの病名で診断されることがあります。

＊＊多発性硬化症、進行性多巣性白質脳症（PML）などの病名で診断されることがあります。

妊娠中の方、授乳中の方

他の病院でオレンシア®の投与を受けたことのある方

オレンシア®投与中の注意点

感染症を防ぐため、日頃からうがいや手洗いを行い、規則正しい生活を心がけてください。
予防接種を受ける場合は、病院の先生に相談してください。

オレンシア®による治療を受ける際は、次のような点に注意してください。

- **感染症を防ぐため、日頃からうがいや手洗いを行い、規則正しい生活を心がけてください。**
- **予防接種を受ける場合には、事前に必ず主治医に相談してください。**
  - オレンシア®の投与を始める前に**必要なワクチンを接種しておく**ことが望ましいとされています。
  - オレンシア®投与中または投与中止後の3ヵ月間は、**生ワクチンを接種しない**でください。
- **妊娠していることが分かった場合には、すぐに主治医に連絡してください。**

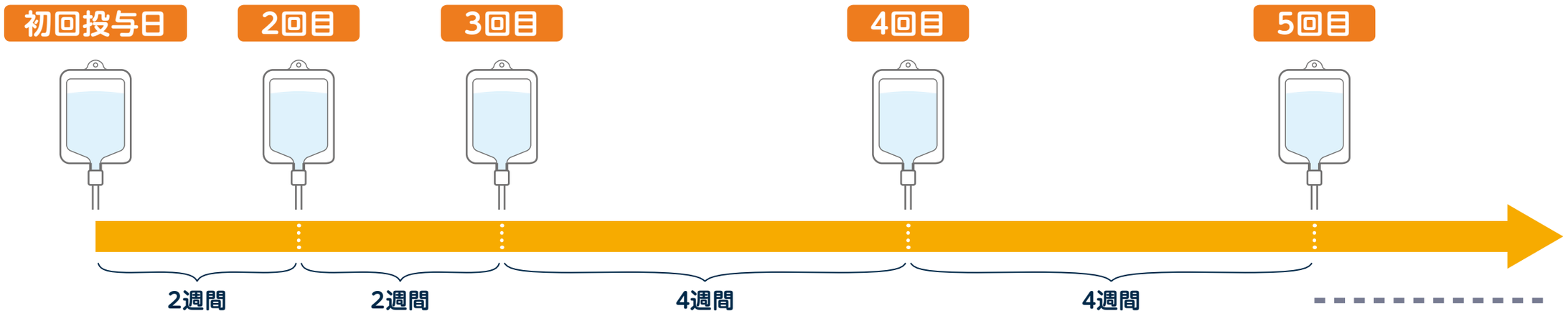
オレンシア®による治療を受けている間は、重い副作用が起きるのを防ぐために、定期的に検査を行いますが、患者さんご自身にも体調管理に気をつけていただくことで、副作用の症状が重くなるのを防ぐことができます。次のような症状があらわれた場合には、次の診察日まで待たずに、すぐに主治医に連絡して診察を受けるようにしてください。

- **発熱**
- **咳、たん**
- **のどの痛み、鼻みず、鼻づまり**
- **だるさ**
- **発疹、皮膚のかゆみ**
- **息切れ、息苦しさ**

その他、いつもと違う症状が出ているなど、何らかの体調の変化があった場合には、必ず主治医もしくは看護師、薬剤師にお伝えください。

オレンシア®の投与スケジュール

オレンシア®は、3回目までは2週間に1回、
3回目以降は4週間に1回、点滴で投与します。
1回の点滴は、30分かけて行います。



アバタセプト（オレンシア®）点滴静注用250mg 添付文書 2018年2月作成（第9版）